

マパークと内外の観光地など、全体で約150機関が出展した。総来場者数は4日間で約13万5,000人。 [石井]

コンベンション・ビューロー convention bureau 会議、展示会などのコンベンションを特定の地域に誘致することにより経済的利益、地域イメージの高揚を図る目的で県・市等の行政、商工会議所、観光協会などがイニシアチブをとって設立する財団などの公益的団体をいう。これらからの出捐金、会員からの会費などにより運営される。事業内容はコンベンション誘致のための調査、広報宣伝、国内および海外のコンベンション主催者に対する働きかけ、コンベンション主催者への各種の支援（コンサルティング、助成・貸付金、行政との連絡、会場手配、宿泊手配サポートなど）がある。

[佐藤(哲)]

日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー Japan Congress & Convention Bureau: JCCB わが国のコンベンションのよりいっそうの振興を図る目的で、運輸省、(特)国際観光振興会、コンベンション推進機関、会議・宿泊施設や旅行・運輸・運営企画などの関連事業者が結集し、1995(平成7)年6月に設立された組織である。

[佐藤(和)]

ビジターズ・ビューロー visitors bureau ツーリスト・オフィスあるいは観光協会とほぼ同義である。アメリカ、特に地方の公的な観光宣伝機関、観光案内所をさして使われる。たとえば、ハワイ・ビジターズ・ビューロー、グアム・ビジターズ・ビューローなどである。また、コンベンションと合わせてニューヨーク・コンベンション・アンド・ビジターズ・ビューローのように使われることが多い。 [石井]

### 3-2 日本における外国人観光客の受け入れと対応

ツーリスト・インフォメーション・センター Tourist Information Center: TIC 観光案内所を意味する英語名称

だが、(特)国際観光振興会の外客総合観光案内所(Tourist Information Center: TIC)をさして呼ばれることが多い。1962(昭和37)年12月、東京オリンピック大会を2年後にひかえて、千代田区有楽町の小谷ビルに東京案内所を開設したのが最初である。次いで'63(昭和38)年7月に羽田空港内、'64(昭和39)年2月京都駅前の京都タワービル内にそれぞれ設立された。羽田空港内のTICはその後成田へ移転し、さらに'94(平成6)年に運営母体が国際観光振興会から東京都、千葉県、成田市の三者に替わり、(財)国際観光サービスセンターが委託を受けて運営している。関西国際空港では、開港と同時に国際観光振興会と近畿圏の16地方自治体が共同で同様の案内所を設置しており、国際観光サービスセンターが運営を受託している。なお、東京TICは'97(平成9)年1月より東京国際フォーラム内(地下1階)に移転した。 [石井]

「i」案内所、「i」システム “i” tourist information offices/“i” Tourist Information Offices Network 地方公共団体などが運営し、外国人に情報提供をしている観光案内所で、(特)国際観光振興会の指定を受けた案内所をさす(「i」はinformationの略)。国内の外客受け入れ体制整備を促進するために、国際観光振興会が地方公共団体と協力して、1983(昭和58)年より外客が比較的多く訪れる地域の観光案内所の整備を推進しており、'97(平成9)年5月現在、全国で91か所が指定されている。

一定の条件を備えた観光案内所からの申請を受け、国際観光振興会が調査のうえ、「i」案内所として指定し、共通のシンボル・マークとしてクエスチョンマーク「?」に英文でinformationと記した看板を付与する。

指定を受けた案内所は、東京、京都に設置された同会運営の外客向け総合観光案内所(Tourist Information Center: TIC)が支援・連携し、「i」システム(外客向け情報提供網)として情報の交換・共有化を推進している。